栃木県埋蔵文化財センターだより

No 39
2005.5
やまかいどう

特集 平成16年度栃木県発掘速報

遺跡全景（東から）▶

低地から出土した加工木材▼

神畑遺跡（足利市）

神畑遺跡は、北関東自動車道路の建設に伴い発掘調査された遺跡で、縄文、古墳及び平安時代の住居や溝などとともに、たくさんの土器や石器が発見されました。

特に縄文時代では、チャートと呼ばれる石を大量に持ち込み、これを材料にして、弓矢の先に付ける矢じりをたくさん作っていました。この矢じりを観察すると、先がちょっと折れていたり、厚くて変な格好だったり、失敗品や未完成のものばかりでした。おそらく完成品は、他の品物と交換するために、遠くの村に運ばれてしまったのでしょう。

神畑遺跡は、通常の縄文時代の遺跡と違って、低地と呼ばれる場所に作られています。遺跡のまわりを掘ってみると、湿地帯のようにぬかるんでいたことがわかりました。この湿地の中からは、住居を作った柱や、先をけずって杭に加工した木材、そしてクリ・ドングリ・トチなどの木の実もたくさん見つかっています。

これらの有機質の製品や木の実が、腐らないで残っていてくれたので、当時の生活のようすや周辺の環境が、よりいっそう明らかになります。

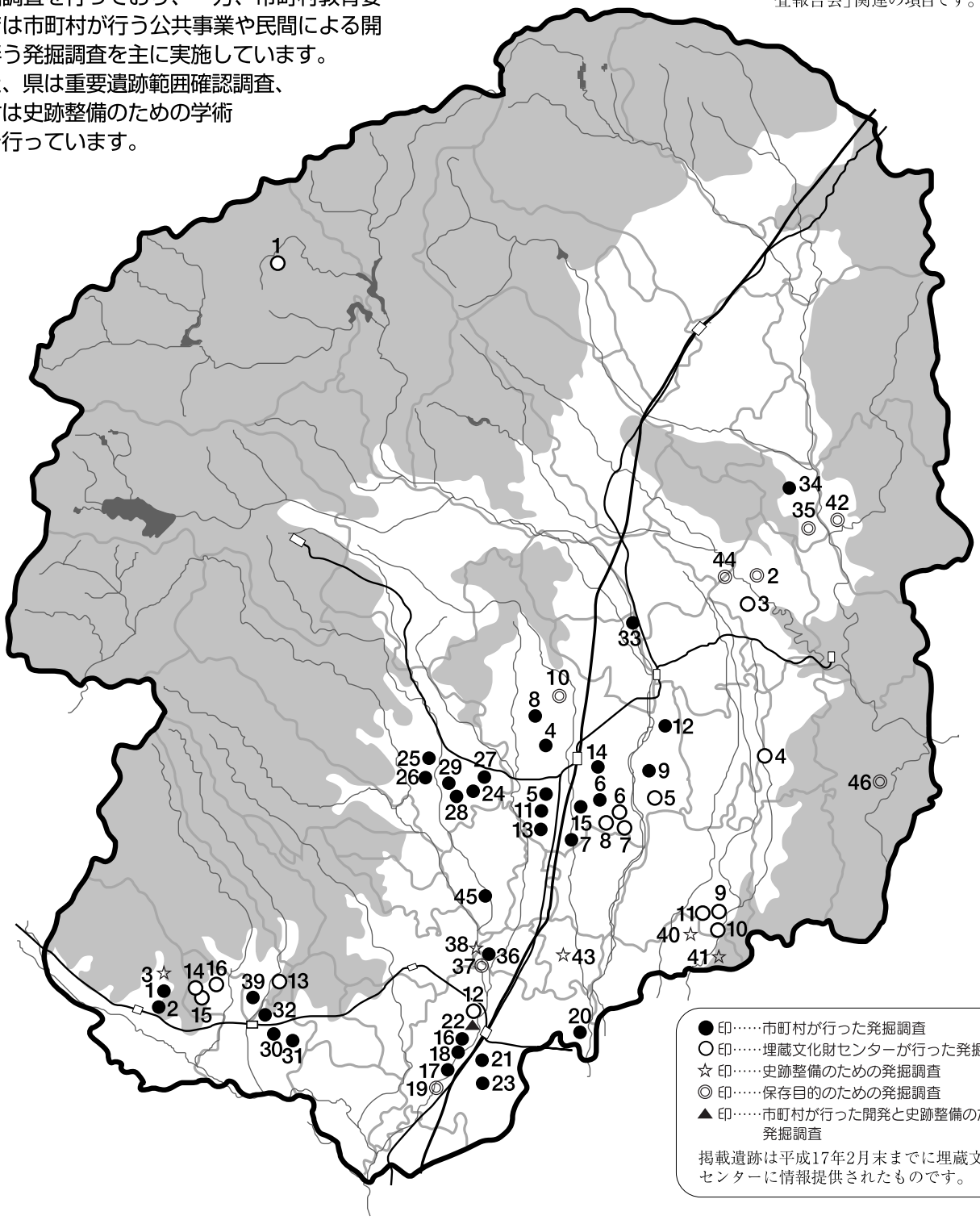
《 も く じ 》

◎特集　平成16年度　栃木県発掘速報
　○表紙　神畑遺跡 ……1
　○栃木県内発掘調査地図及び一覧 ……2･3
　○埋蔵文化財センターが行った発掘調査から
　　小鍋前遺跡 ……4
　　中島笹塚遺跡と磯岡北遺跡 ……5
　　北原遺跡 ……6
　　金井北遺跡、前原遺跡 ……6
　　市之塚遺跡 ……7
　○市町村教育委員会が行った史跡整備のための発掘調査から
　　下野国分寺跡 ……8
　　樺崎寺跡 ……9
　○平成16年度県内発掘調査の動向 ……10
◎平成16年度発掘調査報告会 ……11
◎平成17年度巡回展　栃木の遺跡 ……12

マークは平成17年度巡回展「栃木の遺跡―最近の発掘調査の成果から」関連の項です。
マークは平成16年度「栃木県発掘調査報告会」関連の項目です。

埋蔵文化財センターでは、国や県による道路建設、工業団地造成などの公共工事に伴う事前の発掘調査を行っており、一方、市町村教育委員会では市町村が行う公共事業や民間による開発に伴う発掘調査を主に実施しています。

また、県は重要遺跡範囲確認調査、市町村は史跡整備のための学術調査を行っています。



平成16年度 栃木県内発掘調査一覧

市町村教育委員会が行った発掘調査

	No.	遺跡名	市町村名	主な時代
●	1	馬坂古墳群	足利市	古墳
●	2	宮先古墳群1号墳	〃	古墳
☆	3	樺崎寺跡	〃	中世
●	4	宇都宮城跡	宇都宮市	中世･近世
●	5	大谷田遺跡	〃	奈良･平安
●	6	さるまや城古墳群ほか1	〃	古墳
●	7	杉村遺跡	〃	奈良･近世
●	8	宝木山崎遺跡	〃	不明
●	9	竹下遺跡	〃	縄文･古墳
◎	10	瓦塚古墳群	〃	古墳
●	11	辻の内遺跡	〃	縄文･古墳～平安
●	12	野高谷薬師堂遺跡	〃	中世
●	13	鳴神遺跡	〃	縄文･奈良
●	14	下並塚遺跡	〃	奈良･平安
●	15	砂田遺跡	〃	古墳･奈良
●	16	外城遺跡	小山市	縄文～近世
●	17	千駄塚浅間遺跡	〃	縄文～近世
●	18	外城中台遺跡	〃	古墳～平安
◎	19	間々田牧ノ内遺跡	〃	縄文･古墳～平安
●	20	寺野東遺跡	〃	縄文～平安
●	21	神鳥谷遺跡	〃	縄文～平安
▲	22	祇園城跡	〃	中世･近世
●	23	萩山遺跡	〃	縄文～古墳

	No.	遺跡名	市町村名	主な時代
●	24	植竹東遺跡	鹿沼市	縄文･奈良･平安･近世
●	25	明神前遺跡	〃	縄文～平安･近世
●	26	宝龍内遺跡	〃	縄文～中世
●	27	上台原古墳群	〃	古墳
●	28	反川遺跡	〃	縄文～平安
●	29	西茂呂古墳群	〃	古墳
●	30	クジラ山西遺跡	佐野市	奈良･平安
●	31	宮西遺跡	〃	縄文･古墳～平安
●	32	佐野城跡	〃	近世
●	33	堂ッ原遺跡	氏家町	縄文
●	34	三輪仲町遺跡	小川町	縄文･古墳
◎	35	外山Ⅱ遺跡	喜連川町	奈良
●	36	国分寺北遺跡	国分寺町	縄文～近世
◎	37	国分寺甲塚古墳	〃	古墳
☆	38	下野国分寺跡	〃	奈良･平安
●	39	寺之後遺跡	田沼町	古墳～平安
☆	40	桜町陣屋跡	二宮町	近世
☆	41	三谷草庵	〃	近世～近代
◎	42	川崎古墳	馬頭町	古墳
☆	43	下野薬師寺跡	南河内町	奈良･平安
◎	44	馬屋久保遺跡ほか1	南那須町	奈良
●	45	亀塚古墳	壬生町	古墳
◎	46	中根遺跡	茂木町	旧石器

（平成17年2月末日までに県文化財課へ提出済みのものである）

埋蔵文化財センターが行った発掘調査

	No.	遺跡名	市町村名	主な時代
○	1	湯西川ダム関連遺跡	栗山村	縄文･平安～近世
◎	2	長者ヶ平遺跡	南那須町	奈良･平安
○	3	北原遺跡･小鍋前遺跡	〃	縄文～奈良･平安
○	4	金井北遺跡･前原遺跡	市貝町	縄文･古墳～平安
○	5	下上遺跡	宇都宮市	縄文
○	6	砂田遺跡	〃	縄文～奈良･平安
○	7	砂田瀧遺跡	〃	古代以降
○	8	中島笹塚遺跡	〃	古墳

	No.	遺跡名	市町村名	主な時代
○	9	市之塚遺跡	二宮町	縄文･古墳～中世
○	10	曲田遺跡	〃	古墳
○	11	西物井遺跡	〃	縄文～中･近世
○	12	祇園城跡関連遺跡	小山市	中世
○	13	寂光沢窯跡	岩舟町	奈良･平安、中世
○	14	和田遺跡	足利市	古墳～平安
○	15	田島持舟遺跡	〃	縄文～平安･近世
○	16	神畑遺跡	〃	縄文･古墳～平安

埋蔵文化財センターが行った発掘調査から

小鍋前遺跡（南那須町）

遺跡は、大きく蛇行を繰り返し、北西から南東へ流れる荒川の右岸段丘上にあります。JR烏山線大金駅からは南東に1.5kmほどの所です。もともとよく知られた大きな遺跡で、縄文時代から平安時代の土器や石器が発見されていました。

今回の発掘調査は、荒川南部地区の県営圃場整備事業に先立っておこないました。調査面積は10,000㎡で、遺跡全体の1/4ほどになります。調査の結果、縄文時代と古墳時代の終わりから平安時代初めの頃のムラが見つかりました。

調査区全景（北東上空から）

縄文時代は、中期後半から後期初め（4,500～3,800年前頃）の住居跡5軒、土坑約900基、埋甕10基、陥し穴4基などがありました。住居跡は、長径5mほどの小判形に地面を掘り込み、4本の柱穴を持ち、中央に石囲炉を設けているものがあります。

土坑は、その多くが木の実をはじめとする当時の食糧を貯蔵するために掘られたと考えられます。形から見ると、底が広く壁を外側に掘り広げた袋状土坑と、壁が垂直、または底に向かって少し狭まる円筒形土坑が多くあります。袋状土坑は、調査区東部の50×50mの範囲に密集して約300基ありました。大きさは底面径が1.5m、深さ70cmほどが標準タイプですが、大きいものは開口部径1m、底面径2.7m、深さ1.2mにおよぶものもあります。中には、底面にさらに小さな穴を設けたものもあります。時期は中期後半です。円筒形土坑は調査区中央部を中心に多数ありました。大きさは開口部径1.3m、深さ50cmほどのものが多く、袋状土坑よりやや小型です。時期は中期末から後期初めです。

遺物は、多量の縄文土器と、石鏃、打製石斧、磨製石斧、磨石、石皿、石棒などの石器があります。

古墳時代の終わりから平安時代初めの頃（1,400～1,100年前頃）は、住居跡50軒と掘立柱建物跡5棟、井戸2基がありました。遺物は、土師器や須恵器、土錘、紡錘車、鉄製品などがあります。土師器の坏には文字が墨書されたものもあります。

縄文時代の竪穴住居跡

縄文時代の袋状土坑

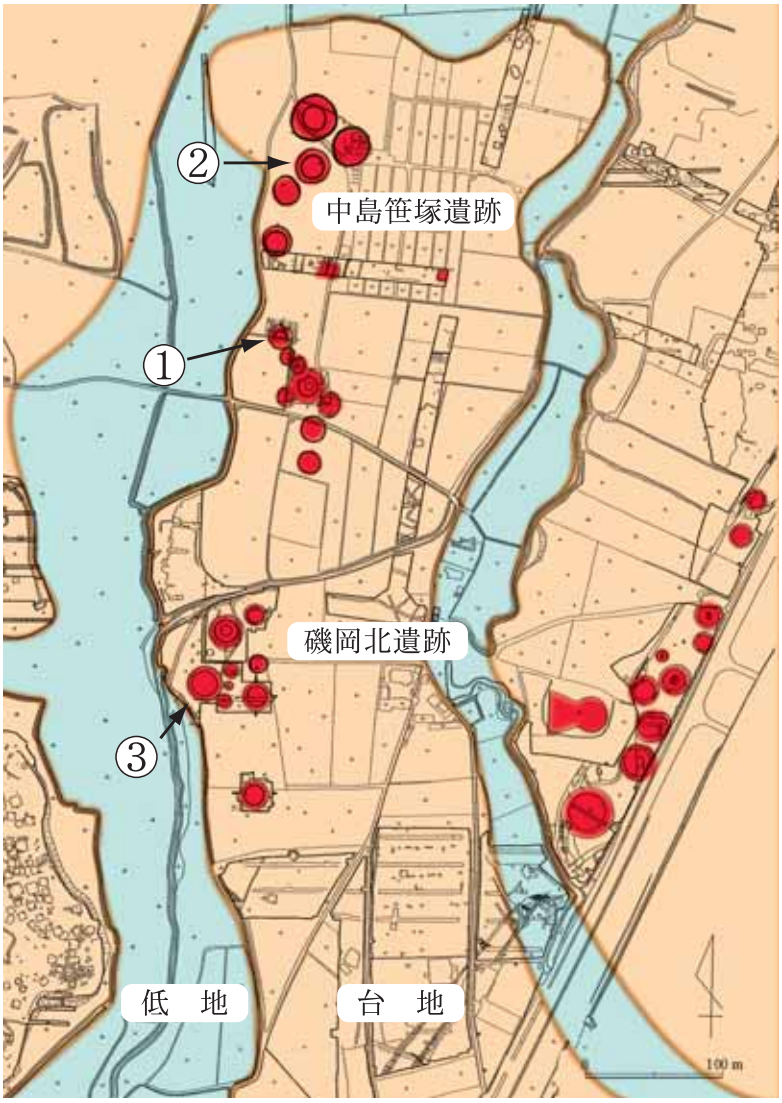
中島笹塚遺跡と磯岡北遺跡（宇都宮市）

東谷・中島地区遺跡群は、北関東自動車道宇都宮・上三川インターを中心とした広大な範囲を指します。発掘調査は、都市再生機構による土地区画整理事業に伴うもので、平成6年度からずっと続けています。長期にわたる調査では、新たな事実の判明や貴重な発見もたくさんあります。平成16年度の調査では、古墳から鏡が1面出土しました。

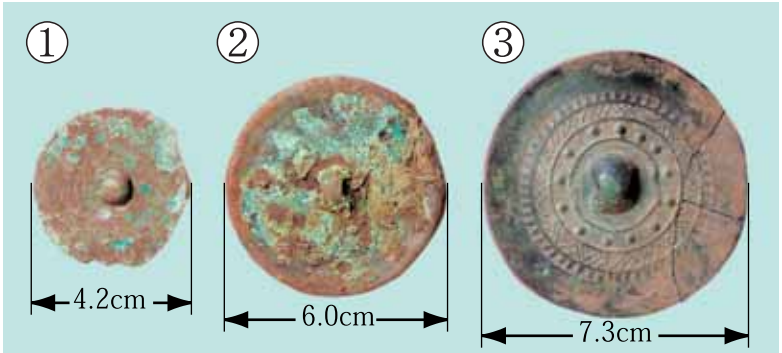
そこで今回は、数多い遺跡の中から鏡が出土した中島笹塚遺跡と磯岡北遺跡をとりあげ、そこでわかったことについてお話ししましょう。

この2つの遺跡は、宇都宮・上三川インターの北側にあります。付近のようすがわかる方なら、最近できた百貨店の東側と言った方がわかりやすいかもしれません。

ここでは、古墳時代中期後半（約1,500年前）の古墳が多く見つかっています。現在は造成されて平らな土地になっていますが、もとは周囲を低い土地に囲まれた細長い台地でした。古墳はその台地の西寄りに、南北に連なっていくつも作られています。磯岡北遺跡はこのうちの南側を指していて、円墳9基が発見されています。



北側が中島笹塚遺跡で、こちらは円墳13基、方墳2基でした。古墳からは、葬られた者と一緒に納められた品物（副葬品）が出土することもありますが、1,500年ほどの間に墳丘（土を盛った高い部分）とともになくなっているものがほとんどです。ところが、磯岡北遺跡で一番大きな古墳では、墳丘の中央に木棺を埋めた痕跡が見つかり、ここで③の鏡が1面出土しました。



その後、平成15年度に①が、16年度には②が発見されました。これで、この地区で出土した鏡は3面となりました。大きさは、一番大きい③が直径7.3cm、中くらいの②が6.0cm、一番小さい①が4.2cmです。一般的に、古墳から出土する鏡は埋葬された人の権威を表すものと考えられています。小さくても鏡が見つかったことは、古墳を作ることができる人の中でも特に有力な者がここに葬られたことを示していると言えるでしょう。ちなみに、一番大きい③の鏡が見つかった古墳の墳丘の大きさは直径21m、中くらいの②は直径20m、一番小さい①は直径14mでした。こうしてみると、古墳の大きさと鏡の大きさが比例する傾向がありますから、鏡の大きさは古墳に葬られた者同士のランクの差を示している、とも言えそうです。

北原遺跡（南那須町）

南上空から見た北原遺跡

本遺跡は、南那須町大字高瀬地内に所在し、大きく蛇行する荒川左岸の段丘上に立地します。発掘調査は、荒川南部地区の県営圃場整備事業に先立って、平成16年4月から実施しています。

調査の結果、古墳時代前期から平安時代の終わり頃にかけての竪穴住居跡を180軒以上確認し、特に古墳時代後期から平安時代にかけて、大きな集落が長期間営まれていた事がわかりました。古墳時代後期の竪穴住居跡は、一辺が約5～7mの方形のものが一般的ですが、なかには一辺が10mを超える大規模なものも見つかっています。

また、竪穴住居跡の北壁か東壁には、煮炊きを行ったカマドが造り付けられ、据えつけられていた甕（かめ）がそのままそっくり出土したものもありました。カマドの芯材に加工しやすい凝灰岩（ぎょうかいがん）を使用しているのが特徴的です。平安時代の遺構としては、古墳時代のものに比べて小規模でカマドが造り付けられている竪穴住居跡の他、倉庫に使われていたと考えられる掘立柱建物跡も確認しています。

金井北遺跡、前原遺跡（市貝町）

南上空から見た前原遺跡

この2つの遺跡は、主要地方道宇都宮茂木線建設に伴い、発掘調査しました。

金井北遺跡は、市塙市街の西方に存在します。標高約119mの台地上に立地し、縄文時代の陥し穴跡、平安時代前期の竪穴建物跡・墓などを発見しています。

陥し穴跡は、縄文時代初めの頃の遺構と考えられます。上端は楕円形で、底に向かって窄（すぼ）まり、深さは1.2m前後です。これらが尾根筋に沿って点々と並んでいるようすを確認しました。

一方、平安時代前期の墓からは、須恵器の蔵骨器（ぞうこつき）（骨壺）が出土し、中には火葬骨が残っていました。墓穴は浅い円形で、中央の窪みに蔵骨器を据え、その周囲には木炭を詰めた痕跡がありました。

前原遺跡は、小貝川を挟んだ東側の微高地に存在し、竪穴居住跡19軒、掘立柱建物跡2棟、などを発見しました。

竪穴住居跡の時期は、7世紀から9世紀代で、土間床の下に複雑な掘り込みがあるもの、壁の周囲に柱穴を持つものなど、特徴のある住居跡を調査しました。掘立柱建物は2×3間の規模で、竪穴住居跡と向きが一致しており、同じ頃の遺構と考えられます。

市之塚遺跡（二宮町）

この遺跡は、二宮町北東部の高田地区にあります。平成15年4月～16年10月にかけて、県営圃場整備事業に伴う発掘調査を行いました。遺跡は、真岡市から二宮町南部にかけて南北に連なる、緩やかに傾斜する台地上にあります。この台地の東側には小貝川が南流しています。

発掘調査では縄文時代早期（約10,000～約6,000年前）、古墳時代（約1,700～約1,400年前）、奈良・平安時代（約1,400～800年前）、鎌倉・室町時代（約800～430年前）、江戸時代（約400～150年前）の遺構や遺物を多数発見しました。

これら遺構で最も多いのが古墳時代の竪穴住居跡で約250軒になります。

竪穴住居跡の構造や出土した甕（かめ）や壺などの土師器の形の違いから、これらの竪穴住居に暮らしていた人々は一度に生活をしていたわけではなく、数軒～数十軒規模の集団が、同じ台地上で住む場所を移しながら暮らしていたことがわかりました。

また古墳時代は住んでいるムラと墓は明確に地域分けされているのですが、市之塚遺跡の集落跡には円墳4基、小石室（しょうせきしつ）2基を発見しました。

このような同地区内で長い期間存続している集落のあり方は芳賀地域では数少なく、また、ムラと同じ地域に古墳が見つかったことは、この地域の当時のムラ社会のあり方や地域開発のようすなどを考えていく上で大きな意味を持つと思われます。

鎌倉時代～室町時代になると、古墳時代とは異なり、お墓の跡や溝跡・井戸跡が多くなり、墓域になっていたと考えています。

調査区を東西方向に横断する2条の溝で大きく3つに墓域が分けられています。

溝で分けられた区画には、お墓だと考えられている地下式壙と長方形土坑や方形竪穴・小穴などが集中していました。

中央の区画からは、長方形土坑の底面付近で銅製の鏡とその下から櫛（くし）2枚・堅果類（けんかるい）（クリ?）とそれらを納めた木箱の底板の一部が見つかりました。これらはお墓に一緒に納められた副葬品と考えています。

また、同じ区画内には一辺が約100mになる溝が方形に巡っている区画があります。

この溝の内側には多数の長方形土坑や井戸跡が他の場所よりも重複して見つかりました。何らかのつながりを持つ集団のお墓が何世代も続いていたと考えられます。

なお、この区画内のお墓からは中国から輸入された青磁碗（せいじわん）が出土しています。

古墳時代の竪穴住居跡遺物出土状況（西から）

青磁碗出土状況（南西から）

市町村教育委員会が行った史跡整備のための発掘調査から

下野国分寺跡（国分寺町）

発掘調査の成果

国分寺についてすでに幾つかの研究があり、塔跡についてはこれまでに3度の調査が行われています。

このうち本格的な発掘調査は、昭和60年度の県教育委員会によるもので、心礎をはじめ四天柱礎、基壇の西端などが確認されました。この調査で塔は焼失したことが確認されています。今回の調査は、礎石の位置・基壇隅・階段などの確認をおもに行いました。

礎石に関しては、過去の調査を参考に位置を割り出し、心礎及び四天柱礎石の確認を行いました。西階段の調査を行いましたが、階段及び基壇外装はすべて抜き取られていました。南階段に関しては地覆石と階段2段分の計3段が確認され、階段東端の三角形の耳石（階段羽目石）も見つかりました。階段東端の部分については、耳石（登葛石）のみが抜き取られた状態で、階段の規模構造が明確にわかる良好な資料となりました。

階段の幅は中央の柱間と同規模の3.6m、階段の出は90cmで床に使用された凝灰岩製の切石（磚）も残っており、階段の地覆石から床上面の高さ（基壇高）が80cmであることも判明しました。柱間はすべて3.6mで、3間規模のため10.8mとなります。

基壇規模は16.8m方形となります。南階段から南東隅部は地覆石がすべて残っていました。

さらに各礎石の平面形が不整形であることが過去の調査で指摘されていましたが、不整六角形の礎石に合わせて三角形などに切り出した付属の石を隅に合わせ置き、平面形をほぼ正方形に整えていることも判明しました。

また、倒壊前に柱が立った状態で焼けたため、柱位置以外の礎石が変色しており、その範囲から四天柱の直径は約75cmであることも判明しました。

焼けた瓦などの状態からは下の階から焼けながらも上層部は火が点く前に南に倒れたと推定できました。

主な出土遺物は、焼けた木材と長さ21cm前後の鉄製の釘約100本・泥塔と呼ばれる土製品約150点などでした。

（国分寺町教育委員会　山口　耕一）

南階段（南東から）

塔跡出土礎石全景（南東から）

北側羽目石列と炭化した板材

樺崎寺跡（足利市）

樺崎寺跡は足利市北東の山間地、市街地から約5kmの樺崎の谷に位置します。

樺崎寺は文治5年（1189）源姓足利氏二代目の足利義兼が奥州藤原氏との戦いに出発する際に戦勝祈願のために創建したとされ、鎌倉・南北朝・室町時代を通して足利氏の廟所として発展します。

昭和59年度より行われた発掘調査では、八幡山山麓の堂塔跡や浄土庭園跡が良好な状態で確認され、鑁阿寺とならんで足利を代表する源姓足利氏ゆかりの寺院であること、鎌倉時代初頭の浄土庭園をもつ寺院として大変重要な遺跡であることなどから、平成13年1月に市内では3番目の国史跡に指定されました。

調査結果

今年度は保存整備に伴う発掘調査の第4年次として、池の西岸について調査を行い、南北朝時代の池岸のようすを確認することができました。池岸には、池側へゆるく下がる斜面にチャートの割石が敷かれていました。池の中からは瓦・かわらけのほか、柿経や漆椀などの木製品も多く出土しています。

また、南北朝時代の池岸の西側から幅約1.5mの通路と思われる平坦面が確認されました。平坦面のすぐ西側には八幡山の旧地形があり、この時期においては池の西岸と西側の山の斜面との間に通路があったものと考えられます。調査の結果、それ以前の鎌倉時代には明確な通路状の平坦面はなく、山の傾斜が池まで続いていたことから、この通路は南北朝時代頃につくられていることがわかりました。

今年度は池の調査のほかに寺域北部の平場部分についても調査を行い、鎌倉時代～室町時代頃の水路跡が確認されました。

幅約1.2m、深さ約40cmの南北方向の水路跡で、八幡山の山裾につくられており、南の園池につながるものと考えられます。

まとめ

今回の調査により、南北朝時代において池の西岸と山の斜面の間に通路がつくられていることがわかりました。

過去の調査成果もあわせ、この時期は中島へ橋がかかり、西岸に通路がつくられるなど、池の周囲や中島へ人が出入りできるようになりました。こうした園池の変遷が明らかになったことは大きな成果といえます。

（足利市教育委員会　板橋　稔）

軒丸瓦出土状況

南北朝時代の池岸と通路跡

柿経出土状況

―― 平成16年度県内発掘調査の動向 ――

平成16年度の栃木県の発掘動向として注目されるのは、市町村の緊急調査は減少したが、史跡整備等を目的とした調査に成果がみられたこと。特に、一塔三金堂の可能性が指摘された下野薬師寺の調査（南河内町）、保存状態の良好な塔跡が発見された下野国分寺の調査（国分寺町）、園地の変化が判明した樺崎寺の調査（足利市）、東山道駅路の長者ヶ平遺跡調査（南那須町）などがある。

また、発掘調査とは直接関係しないが、今年度に小山市寺野東遺跡と宇都宮市飛山城で念願の史跡整備が終了し、市民に公開されたのは特筆すべき慶事である。

一方、当センターでは、北関東自動車道路や県営圃場整備に伴う緊急調査を、前年度とほぼ同量の規模で実施した。

具体的にみていこう。北関東自動車道路建設に伴う今年度の調査は、茨城県寄りが一段落し、群馬県方面が中心になった。

主な遺跡は足利市月谷町の和田遺跡、同田島町の田島持舟遺跡、同菅田町の神畑遺跡、岩舟町小野寺の寂光沢遺跡、二宮町物井の西物井遺跡、同高田の曲田遺跡などがある。

和田遺跡では、古墳～奈良・平安時代の住居跡26軒を、田島持舟遺跡では縄文時代、弥生時代から古墳時代、古代から近世と三枚の遺物包含層を調査した。

扇状地に立地する神畑遺跡では、縄文時代後期後半から晩期前葉の遺物が出土した。

東に開く谷と斜面に立地する寂光沢遺跡では、8世紀中葉から9世紀後半の須恵器と瓦を焼成した窯跡3基と捨て場を継続調査中である。小貝川の低地に立地する曲田遺跡では、5世紀末葉に属する石製模造品の製作工房を確認した。

宇都宮市南部のテクノポリス地区の調査も最終局面を迎えた。今年度は砂田遺跡20～28区と中島笹塚遺跡7・8区、砂田瀧2区の調査を実施。国土交通省関係では湯西川ダムに伴い川戸釜八幡遺跡（栗山村）の調査を実施した。

土木部関係では、主要地方道宇都宮・茂木線芳賀バイパスに伴い市貝町市塙の金井北遺跡と前原遺跡の調査を実施し、古代集落の一端を発見した。

農務部関係では、県営圃場整備事業等で二宮町高田の市之塚遺跡、南那須町高瀬の北原遺跡・同大里の小鍋前遺跡、宇都宮市上籠谷町の下上遺跡の調査を実施し、多くの成果をあげた。

まず小貝川左岸の細長い低台地上に立地する市之塚遺跡は、昨年度から継続調査した県内屈指の大規模な遺跡で、縄文～江戸時代まで多種多様の遺構が発見した。

市之塚遺跡の遺構群（2区中央部）

荒川左岸の段丘上に立地する北原遺跡では古代の住居跡180軒等を、同じ荒川右岸の段丘に立地する小鍋前遺跡では、縄文時代中期～後期の土坑900基等を調査した。江川東岸の台地上に立地する下上遺跡では、縄文時代後期の土坑を540基調査した。

センターの最後は、重要遺跡として調査した南那須町鴻野山の長者ケ平遺跡である。遺跡の性格が注目されるなか、4年目の調査を実施。官衙の範囲や官衙施設の機能、タツ街道との関係などを究明した。

（調査部長　橋本　澄朗）

栃木県埋蔵文化財センター
栃木県立しもつけ風土記の丘資料館
協力

平成16年度 発掘調査 報告会

当埋蔵文化財センターでは前年度に発掘調査した中から、いくつかの遺跡について報告会を行っています。今年は、下記の7遺跡について発表します。スライド等を使った発掘調査担当者による一般向けの解説です。なお、今回の7遺跡の遺物・写真等は巡回展に展示されておりますので、報告会終了後しもつけ風土記の丘資料館にて遺物等の解説を行います。

日　　時：平成17年5月28日（土）
　　午前10時～午後3時
場　　所：栃木県埋蔵文化財センター
定　　員：200名
入　　場：無料
申　　込：栃木県埋蔵文化財センター普及事業担当（0285-44-8441）
　　まで電話にてご連絡ください。

発表遺跡：1. 小鍋前遺跡（南那須町）
2. 神畑遺跡（足利市）
3. 中島笹塚遺跡（宇都宮市）
4. 北原遺跡（南那須町）
5. 金井北遺跡・前原遺跡（市貝町）
6. 祇園城跡関連遺跡（小山市）
7. 市之塚遺跡（二宮町）

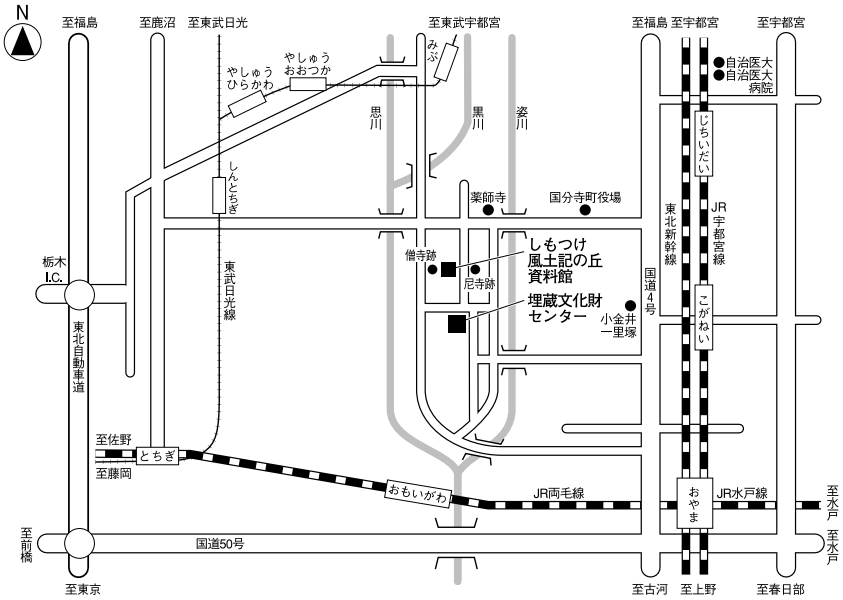
編集後記

「栃木県埋蔵文化財センターだより」の広報担当となって早1年、無我夢中であっという間でした。毎号毎号苦労の連続でしたが、年間購読者の方から好評をいただき、とても励まされました。今年はよりいっそう内容の充実に力を注ごうと思います。また、ご意見ご要望などがありましたらお寄せください。

「やまかいどう」は埋蔵文化財センター建設時に発掘調査を行った敷地内の「山海道遺跡」にちなんで命名された情報誌です。

《埋蔵文化財センターへのご案内》

- JR小金井駅から約4km、車で約10分
- 東武壬生駅から約6km、車で約15分
- 東武栃木駅から約9km、車で約20分



発行　栃木県教育委員会
　　宇都宮市塙田1-1-20　TEL028-623-3425
編集　（財）とちぎ生涯学習文化財団
　　埋蔵文化財センター
　　〒329-0416
　　栃木県下都賀郡国分寺町大字国分乙474
　　TEL0285-44-8441（代）FAX 0285-44-8445
　　E-mail　webmaster@maibun.or.jp
　　URL　http://www.maibun.or.jp/
印刷　ヤマゼン コミュニケイションズ（株）

しもつけ風土記の丘資料館・
栃木県立博物館・
なす風土記の丘資料館

平成17年度
巡回展

栃木の遺跡

—最近の発掘調査の成果から—

栃木県では、毎年多くの遺跡で発掘調査が実施されています。それらの成果を、出来るだけ早い時期に、より多くの方にご覧いただくため、近年調査された遺跡とそこから出土した土器資料等を、県南・中央・県北と順次、県立施設3館で巡回して紹介するものです。多数ご来場くださいまして、文化財を身近に感じ、郷土の祖先の暮らしを振り返ってみてください。

☆主な展示予定資料

展示室のスペースや遺物の整理日程の都合により、各館の展示資料が変更になることがあります。

西暦	時代	
紀元前10000	旧石器時代	伊勢崎Ⅲ遺跡（真岡市）
	縄文時代	神畑遺跡（足利市） 小鍋前遺跡（南那須町） 新道平遺跡（南那須町） 島田遺跡（上三川町） 井口遺跡（那須塩原市）
紀元前400	弥生時代	
紀元後300	古墳時代（飛鳥）	中島笹塚遺跡（宇都宮市） 傾城塚遺跡（佐野市） 甲塚古墳（国分寺町） 瓦塚古墳（宇都宮市）
600 710	奈良・平安時代	北原遺跡（南那須町） 金井北遺跡（市貝町） グシ内南遺跡（芳賀町）
1192	鎌倉・室町時代	市之塚遺跡（二宮町） 祇園城跡（小山市） 樺崎寺跡（足利市）
1603	江戸時代	

巡回展示のご案内

平成17年4月16日（土）～5月29日（日）

栃木県立しもつけ風土記の丘資料館

下都賀郡国分寺町国分993（Tel 0285-44-5049）

栃木県埋蔵文化財センター

●平成16年度発掘調査報告会

日　時：平成17年5月28日（土）10:00～15:00
会　場：栃木県埋蔵文化財センター
研修室（詳細→11ページ）

平成17年7月2日（土）～9月11日（日）

栃木県立なす風土記の丘資料館

展示会場：湯津上館
那須郡湯津上村湯津上192（Tel 0287-98-3322）

●オープニングセレモニー

日　時：7月2日（土）
会　場：湯津上館

●展示解説

日　時：7月31日（日）13:00～
会　場：湯津上館
午前中は「なすの土器作りに挑戦」を開催

●展示会関連イベント

日　時：7月30日（土）9:00～・8月20日（土）9:00～
会　場：湯津上館

平成17年12月10日（土）～平成18年1月22日（日）

栃木県立博物館

宇都宮市睦町2-2（Tel 028-634-1311（代））

●展示解説

日　時：12月17日（土）13:30～14:30

3館共通　利用の案内

開館時間：9:30～17:00
（入館は16:30まで）

休 館 日：月曜日（祝日・休日を除く）
祝日・振替休日の翌日